資料１－１

平成３０年度
事　業　報　告　書
（案）

Tsukuba Global Innovation
Promotion Agency

自　　平成３０年４月　１日
至　　平成３１年３月３１日

一般社団法人つくばグローバル・イノベーション推進機構

一般社団法人つくばグローバル・イノベーション推進機構

平成 30 年度事業報告書　目次

１．平成 30 年度の総括・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

２．事業活動の内容 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

（ア）技術シーズの事業化支援 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
（１）　文部科学省補助事業「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」
（２）　事業化推進プログラム

（イ）プラットフォーム（共創場）の構築 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
（１）　つくばにおける技術相談のワンストップ窓口による支援
（２）　交流の場の提供（つくばイノベーションプラザの活用）
（３）　研究設備及びバイオリソース情報のワンストップ機能の強化
（４）　つくばイノベーション・エコシステム構築に向けた合同連絡会の開催

（ウ）特区プロジェクトに対する横断的な支援及びその他の活動・・・・・・・・・・10
（１）　特区プロジェクト等が実施する会議等の運営支援
（２）　特区プロジェクトに対する横断的な支援
（３）　プロジェクト「つくば生物医学資源を基盤とする革新的医薬品・医療技術の開発」に係る取組み
（４）　プロジェクトに関する広報支援

（エ）情報発信・国際連携活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
（１）　ウェブサイト・メールマガジン等を活用した情報発信
（２）　ハイレベルフォーラムへの参加
（３）　筑波大学の JST さくらサイエンスプログラムへの協力

３．会員の勧誘活動の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17

４．TGI の運営に関する事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17

１．平成 30 年度の総括

一般社団法人つくばグローバル・イノベーション推進機構（以下、TGI という。）は、平成 26 年度３月に一般社団法人として設立以来、つくば発のイノベーションを恒常的に生み出す基盤組織として、各種事業を展開しています。平成 30 年度も引き続き、茨城県、つくば市、筑波大学、ほか会員各位のご支援のもと、つくば地域の技術シーズの事業化支援、プラットフォーム（共創場）の構築、つくば国際戦略総合特区プロジェクトへの横断的支援、情報発信・国際連携等を推進しました。

つくば地域の技術シーズの事業化支援の取組として実施する、文部科学省補助事業「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」は、平成 30 年度で３年目を迎え、着実に成果が表れています。事業化プロジェクト１（偏光 OCT－次世代 OCT 産業の創造）では、プロジェクトの成果の一部が企業への技術移転に結びつきました。事業化プロジェクト２「世界中の眠りに悩む人々へのサービス事業」では、平成 29 年度に本プロジェクトから筑波大学ベンチャーとして設立された株式会社 S’UIMIN との役割分担のもと、睡眠障害に悩む人々へのサービス事業展開のための基盤作り（測定機器の開発、認証に向けた種々の準備等）が本プロジェクトと並行して開始・展開されました。なお、株式会社 S’UIMIN は 7 億円の資金調達に成功しています。

また、プラットフォーム（共創場）の構築に向けた取組として、技術相談のワンストップ窓口による支援の実施や、各企業・研究機関の連携の拡大を促進するつくばライフサイエンス推進協議会（TLSK）、つくばイノベーション・エコシステムの構築に向けた合同連絡会を開催しました。各々の取組を連携することにより、技術相談のワンストップ窓口は 92 件の相談（前年度比約 2 倍）を受け、10 件以上が共同研究・共同事業に繋がる等、TGI はつくば地域のイノベーション創出のためのプラットフォームとしての存在感を強めています。

つくば国際戦略総合特区事業においては、昨年度に引き続き、各プロジェクトの運営支援・広報支援や、各プロジェクト間の連携促進活動を行いました。本年度は新たに、一般の方に事業の意義を理解いただくための、特区の事業概要や各プロジェクトを紹介するセミナーを実施しました。今後は、特区プロジェクトから顕著な成功事例を創出し、それを地域に定着させることが重要と考えています。

TGI は、つくば地域のイノベーションを恒常的に生み出す基盤組織として、地域と連携を深めるために、会員や地域の皆様に、有意義な情報提供や成果の発信が必要であると考えており、今後それらを強化する取組を推進いたします。

２．事業活動の内容

（ア）技術シーズの事業化支援

つくば地域の豊富な技術シーズを事業化へと導き、世界に大きなインパクトを与える成功事例を創出すべく、技術シーズの発掘・育成から出口まで一貫した支援を実施した。事業化の出口としては、企業への技術移転やベンチャー企業の創出・成長（IPO）を目指している。支援するにあたり、文部科学省補助事業、国際戦略総合特区制度を活用することに加え、筑波大学と連携した人材育成支援や、企業・投資機関等へのアプローチ（売り込み、つくばへの呼び込み）を実施した。

（1） 文部科学省補助事業「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」

平成 28 年度からＴＧＩと茨城県が共同で実施している「つくばイノベーション・エコシステムの構築－医療・先進技術シーズを用いた超スマート社会の創成事業－」において、平成 30 年度は事業化プロジェクト２件、基盤構築プロジェクト５件の計７件のプロジェクトの事業化を支援した。

平成 30 年度は、文部科学省より中間評価を受け、各プロジェクトが事業化に向けて着実に進捗していることや、ＴＧＩがハブとなりつくばのコア技術を有機的に結びつける新たな産学官連携のモデル構築に取組んでいることが評価され、総合評価Ａの高い結果を得た。

① <u>事業化プロジェクト</u>

「世界中の眠りに悩む人々への睡眠計測検査サービス事業」

【中心研究者】

筑波大学　教授　柳沢　正史

【事業概要】

だれでも自分で簡単に装着できて睡眠を妨げない小型脳波測定デバイスと、専門技師と同等の精度で解析できる完全自動睡眠脳波解析プログラムを組み合わせて、一般医療機関での客観的な検査と診断を実現し、睡眠障害の有効で適切な治療に貢献する。

【平成 30 年度実績】

平成 29 年度に作成された人工知能（AI）アルゴリズムをさらに改良し、従来型脳波計（ＰＳＧ）で取得したヒト脳波の AI 解析精度を改善させた。さらに、新規開発された脳波測定デバイスによる健常人脳波の AI 解析でも、トップレベルの臨床検査技師に匹敵する精度を達成した。本プロジェクトの事業化への取組みとして、平成 29 年 10 月に設立された株式会社 S’UIMIN が、平成 30 年 10 月に、スパークス・グループ株式会社が運営する「未来創生（１号）ファンド」と「未来創生２号ファンド」から計 7 億円の資金調達を行った。同社は、脳波自動解析プログラムの医療機器認証を目的として、製造販売業許可取得、QMS 体制構築を実施中である。

「偏光ＯＣＴ－次世代ＯＣＴ産業の創造」

【中心研究者】

筑波大学　教授　安野　嘉晃、筑波大学　教授　大鹿　哲郎

【事業概要】

筑波大学独自の技術による新検査法（JMT：Jones matrix tomography）は、簡便・高速に生体の光特性情報のすべてを含んだジョーンズ行列トモグラフィーの撮影、

画像処理を行うことで、人体に一切悪影響を与えずに眼の血流、生体色素、生体線維分布のトモグラフィーを提供する。

【平成30年度実績】

・眼底について

JM-OCT のマルチコントラスト特性を用いた組織弁別法を開発した。JM-OCT のデータを活用し、色素上皮、脈絡膜実質の弁別を行う手法を開発した。この弁別手法は、様々な眼底疾患（地図上萎縮(GA)、加齢黄斑変性に伴った色素上皮剥離（PED)）でも、この弁別手法が利用可能なことを確認した。また、JM-OCT で計測される情報を活用し、眼底篩状板のビーム構造のみを選択的に抽出する手法を開発した。以上の技術を統合し、臨床グレードで使用可能な JM-OCT の稼働を確認した。

・前眼部について

角膜移植の評価方法を調査し、指定管理医療機器（クラス II)認証装置を導入して臨床試験を加速することになった。筑波大学眼科外来に設置された前眼部 JM-OCT 装置を使って患者データの取得を開始した。

・皮膚科学・病理　ＪＭ－ＯＣＴ顕微鏡について

従来のＪＭ－ＯＣＴ計測機能に加え、組織に圧力をかけながらＪＭ－ＯＣＴ計測を行う機能を付加することにより、組織の機械特性計測機能を実現させることに成功した。

② 基盤構築プロジェクト

つくば地域から絶え間なくイノベーションを創出するため、能動的に次世代プロジェクト候補の発掘・育成と人材育成支援の取組みを行った。平成３０年度は、平成２８年度から事業化を支援している「レドックスポリマーの事業化に向けた概念実証」に加えて、筑波大学等が実施している次世代アントレプレナー育成事業（ＥＤＧＥ－ＮＥＸＴ）と連携して発掘した４件のプロジェクトの事業化を支援した。

○基盤構築プロジェクト１

「レドックスポリマーの事業化に向けた概念実証」

中心研究者：筑波大学　教授　長崎　幸夫

【事業概要】

正常な活性酸素種の産生を妨げずに、疾病に関与する活性酸素種を選択的に消去するレドックスポリマーを開発している。酸化ストレス障害に苦しむ患者のＱＯＬを向上するため創薬や医療器材等への展開を目指している。

【平成 30 年度実績】

レドックスポリマーの安全性確認をさらに進め、外部委託で染色体異常試験及びＡＭＥＳ試験を行い、異常がないことを確認した。また、各処材料製造法の検討を行い、事業化に必要な特許を維持した。

○基盤構築プロジェクト２
「遮光と眺望を両立する調光ガラスの開発」
　中心研究者：物質・材料研究機構　グループリーダー　樋口　昌芳
【事業概要】
　競合商品と異なりグラデーションができ、カラーバリエーションも豊富な「調光ガラス」を、オフィスビル需要のほか、公共施設や病院、店舗、モビリティなどに提案していく。
【平成 30 年度実績】
　研究室の手のひらレベルの試作品より大型のデバイス製作の技術開発に取り組み、企業等に紹介可能なプロトタイプができた。また、美術大学とも技術交流を図り、競合が単に窓一面の色が変わるのに対して、意匠をも表現できる商品開発に取り組んでいる。これらの取組みにより、平成３０年１２月にＮＩＭＳベンチャーとして認定され、平成３１年中に会社を設立することとなった。

○基盤構築プロジェクト３
「高品質・量産化グラフェンによりつくばから事業化」
　中心研究者：産業技術総合研究所　グループ長　長谷川　雅考
【事業概要】
　高品質・低価格で量産化が可能なグラフェンを用いて、ウェハに転写する要素技術を確立し、超高感度の爆発物センサーなどの需要を取り込む。グラフェンの特性を活かしたフレキシブルディスプレイなど、次世代の製品事業の足掛かりとする。
【平成 30 年度実績】
　４インチのシリコンウェハにグラフェンを着実に転写する技術が確立された。産業交流展などの場も含め営業活動を展開した結果、複数の企業から注文があった。個別に受注する数量はまだ小さいため産総研内の既存設備で対応しているが、今後受注状況により製造設備への資本投下又は技術移転などの次のステージを考える状況になった。

○基盤構築プロジェクト４
「多様な条件で微小領域の熱物性を測定する」
　中心研究者：物質・材料研究機構　特別研究員　馬場　哲也
【事業概要】
　本技術を移転したベンチャー企業では、ナノレベルで熱物性を測定できる唯一の測定器を開発・販売しているが、実際の計測には特別な技術習得が必要な高価な機器である。これに対し、企業の研究所でも簡易的に測定できる汎用機を開発し、急増する熱物性測定ニーズに対応し、機器普及の裾野を広げる取組みを行う。
【平成 30 年度実績】
　測定の自動ステージを選定・装着、画像処理調査の実施、サンプル試料の整備、廉価版レーザー光源器の選定調査により、現在１台 3,000 万円近くする測定器に対して数百万円レベルの汎用機の開発が可能となった。また特殊な薄膜形成に独自技術を持つＮＩＭＳベンチャー（株式会社コメット）との関係が構築でき、次のビジネス展開が見える形となった。

○基盤構築プロジェクト５

「嚥下計の普及により人々の健康的な食の寿命を延ばす」

中心研究者　筑波大学　教授　鈴木　健嗣

【事業概要】

嚥下測定器を開発し、国内で早期に医療機器認証され次の展開に進めるよう、臨床データの大量収集、解析を図る。また米国、欧州など海外での嚥下計事業展開についてもその可能性を確認する。

【平成３０年度実績】

データ収集促進のため、新型器の金型製作、データ解析支援、学会での販促支援などを実施したことも功を奏し、多くの介護施設、病院、大学と関係を構築し優良なデータが大量に収集される仕組みが構築できた。また、介護食品メーカーを斡旋、共同研究に進み、事業展開の幅が広がった。米国市場調査を支援、シリコンバレーの医療機器業者との関係ができ、米国でＦＤＡ認可の方策が立ち、同時に米国での事業展開の目途が立った。

（２） 事業化推進プログラム

つくばイノベーション・エコシステムの構築を支援することを目的として、本プログラムを提案していたが、今年度は事業化支援プログラム支援の要請がなかったため、支援実績はなかった。次年度以降は支援策を再考し、つくばイノベーション・エコシステム構築事業に貢献する。

（イ）プラットフォーム（共創場）の構築

（1） つくばにおける技術相談のワンストップ窓口による支援

企業等からの技術相談を受け、筑波大学、物質・材料研究機構、農業・食品産業技術総合研究機構の専門家を紹介し課題の解決を図る、「つくばテクニカルコンシェルジュ（TTC）」及び、産業技術総合研究所などの研究機関の専門家の紹介や金融機関、企業間マッチングなどの取組を支援する「架け橋」活動を実施した。

今年度は TTC：9 件、架け橋：83 件（計 92 件）の相談実績があり、国内からの依頼に対する対応のみならず、JETRO や筑波大学を介した海外の機関との共同研究や共同事業を目指したマッチングも多く実施した（10 例以上）。

【参考】TTC他活動実績

	H28	H29	H30
TTC活動実績件数	6 件	10 件	9件
架け橋活動実績件数	22 件	31 件	83件
合計	28 件	41 件	92件

また、平成 31 年 2 月 19 日（火）～20 日（水）に茨城県が主催した対日直接投資カンファレンス（RBC：Regional Business Conference in IBARAKI）では、つくばライフサイエンス推進協議会（TLSK）（後述）に協力を依頼し、海外招聘企業の選択や TLSK メンバーからの RBC への招聘等により、茨城県グローバル戦略チームの支援を行った。

対日直接投資カンファレンス主要参加者

住川理事長交流会挨拶

（2） 交流の場の提供（つくばイノベーションプラザの活用）

つくばイノベーションプラザ内にあるイノベーションサロンを活用し、異分野の若手研究者の打合せ（7 回開催）を行なった。つくばイノベーションプラザの交通利便性を活かして、サロンや会議室で、関係機関の打合せや研究者の事業化推進のための打合せ等を活発に行った。

（3） 研究設備及びバイオリソース情報のワンストップ機能の強化

つくばの研究機関が有する最先端研究設備の共用化の推進を促進するため、ＴＴＣ活動等技術相談やイベントを通じ、つくば共用研究施設ベータベースの紹介、利用促進を図ってきた。更に同データベースは、筑波大学オープンファシリティ推進室が新たに加わったことにより、提供施設の拡充が図られた。

これまでＴＧＩが管理・運営を支援してきたデータベースは、ＴＩＡからの要望を受け、平成 31 年度からは、維持・管理機能等の強化及び利用の促進を図るため、ＴＩＡに移管することになった。

（４） つくばイノベーション・エコシステム構築に向けた合同連絡会の開催

つくば地域の連携、研究分野の融合を促進し、事業化に結びつける機能の強化に向け、つくば地域各機関のコーディネーターの情報共有と、一体となって活動することを目的とし「つくばイノベーション・エコシステム構築に向けた合同連絡会」を開催した。

〇第１４回合同連絡会（参加者数４５名）

・日時：平成 31 年 1 月 10 日（木）15 時 00 分 ～ 16 時 30 分
（懇談会：16 時 30 分 ～ 17 時 00 分）

・場所：つくばイノベーションプラザ 大会議室

・プログラム：
平成 31 年度助成金関連について（JST）
スタートアップ推進室の取組み（つくば市）
アントレプレナー教育 EDGE-NEXT について（筑波大学）
基盤構築プロジェクトについて（TGI）
トークセッション　「つくばにおけるイノベーションの創出」

合同連絡会の様子

（ウ）特区プロジェクトに対する横断的な支援及びその他の活動

（１） 特区プロジェクト等が実施する会議等の運営支援

① つくば国際戦略総合特区プロジェクトの進捗状況

つくば国際戦略総合特区の各プロジェクトについて、茨城県及びつくば市とも連携して、進捗状況を随時確認しながら支援した。

次世代がん治療（BNCT）の開発実用化
小型加速器中性子発生装置のキー・テクノロジーである中性子発生用ベリリウム標的の健全性評価等の物理的特性測定を実施した。これまでの特性測定結果から、当治療装置は BNCT 治療を 1 時間以内で完了できる強度の中性子を発生でき、治療に要求される性能を有していることを確認した。現在はさらにビーム強度の増強を図るための改良、高度化を行っている。
生活支援ロボットの実用化
平成 30 年 3 月には産総研はロボット安全検証センターでのロボットの安全性検証の研究を終了し、10 月には公募プロセスを経て施設、設備を売却し、ロボットの安全性評価は研究から事業へと移管した（社会実装に到達）。
藻類バイオマスエネルギーの実用化
小貝川東部浄化センター内に藻類バイオマス培養施設「小貝川藻類バイオマス研究ステーション」を設置し、一時処理水と活性汚泥を用いた藻類バイオマスの生産に成功した。
TIA　オープンイノベーション拠点
TIA のプラットフォームで研究開発が進められてきた「NanoBridge-FPGA」が JAXA 革新的衛星技術実証 1 号機に搭載され、打ち上げに成功した。「TIA 連携プログラム探索推進事業『かけはし』」では、600 名を超える研究者が参加し、50 件の外部資金獲得につながった。さらに、新たな取り組みとして「企業提案テーマ」による活動を開始した。
つくば生物医学資源を基盤とする革新的医薬品・医療技術の開発
本プロジェクトの推進基盤協議会であるつくばライフサイエンス推進協議会（TLSK）の会員数が 50 団体まで増えた。また、若手研究員の育成交流を目的とした TLSK 若手交流会でワーキングを実施して、３つの夢テーマを運営委員会で提案され、その一つが採択された。またテーマの改組を行い、２つのテーマを中止した一方、１つのテーマを新たに加えた。
核医学検査薬（テクネチウム製剤）の国産化
静水圧加圧（HIP）法による高密度 MoO3 ペレットの特性評価を行い、大量製造への見通しを得た。また、未照射の Re を用いた分離・抽出・濃縮工程の最適化試験を行うとともに、京大炉(KUR)での照射試験により開発したアルミナ系 Mo 吸着剤の 99Mo 吸着/99mTc 抽出特性を明らかにした。
戦略的都市鉱山リサイクルシステムの開発実用化
小型家電リサイクルプラントの無人化に向け、NEDO プロジェクトで開発する基本装置を導入した集中研究施設 CEDEST を開設した。CEDEST において、廃小型家電解体の基本概念を構築するとともに、解体によって得られる二次電池等の自動選別機構を開発した。また、細粒子選別機の選別機構を解明するためのシミュレータ開発に着手した。

植物機能を活用したヒトの健康増進に資する有用物質生産システムの開発事業化
ミラクリントマト実用化のための高収率精製方法の開発および特区プロジェクトにかかわる研究を行うための施設「バイオ・マテリアル植物生産研究棟」が特区調整費によって平成31年3月中旬に完成している。食品としてのミラクリントマトの安全性については、平成30年12月に2回目の遺伝子組換え食品専門調査会が開催され、承認に向け着実に前進している。また、カルタヘナ法に基づく一般的な使用を目指し、平成30年6月に第一種使用の大臣承認を得て、同年8月から隔離圃場栽培により環境影響評価を実施している。

②特区に関わる会議等の運営支援

○つくばライフサイエンス推進協議会（TLSK）　3回
平成30年5月22日（第31回）、9月18日（第32回）、
平成31年1月21日（第33回）（筑波大学本部棟5階大会議室）

○つくば生物医学資源コンソーシアム運営委員会　3回
平成30年6月22日（第14回）、11月2日（第15回）、
平成31年3月1日（第16回）（筑波大学高細精医療イノベーション棟415室）

○核医学検査薬テクネチウム国産化プロジェクト会合　2回
平成30年6月20日　第7回（千代田テクノル大洗大貫台事業所　AB会議室）
平成30年12月3日　第8回プロジェクト会合（筑波大学高細精医療イノベーション棟511室）

○iBNCTコア会議　10回
平成30年4月26日、5月30日、6月27日、7月25日、9月12日、10月24日、11月28日、平成31年1月16日、2月21日、3月27日（筑波大学付属病院陽子線医学利用研究センター　3階カンファランスルーム）

○都市鉱山SUREセミナー・定期総会　3回
平成30年7月6日、9月27日、平成31年3月22日（秋葉原UDX）

○つくばバイオマテリアル植物生産プロジェクト会合キックオフ会合支援
平成30年5月23日（筑波大学高細精医療イノベーション棟415室）

（2） 特区プロジェクトに対する横断的な支援

① つくば生物医学資源コンソーシアムのテーマ改組
最先端技術の発展に即し、企業との共同事業化テーマを集めた「つくば生物医学資源コンソーシアム」のテーマを改組した。

【H30年度に提案・採択された新規テーマ】
・サルファーインデックス解析を利用したセルフメディケーション
（平成30年9月18日の第7回TLSKピッチ会テーマ“Sulfur Index®～硫黄で社会を創造する～”より）

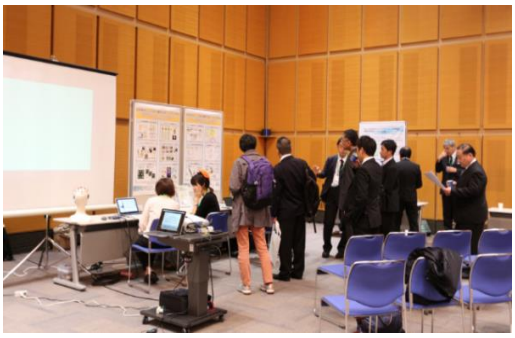
【H30 年度に中止したテーマ】
・がん幹細胞に特異的に発現する複合糖質に対する医薬品
(参画企業の撤退のため)
・ナノ粒子アジュバントによるがん治療
(担当の中心研究者の先生がご退官のため)

② つくば生物資源コンソーシアムのテーマの広報
つくば生物資源コンソーシアム活動を国内外のライフサイエンス領域の企業に紹介する目的で、各コンソーシアムの中心研究者方に担当のテーマの概要資料を提出して頂いた。そして、対日直接投資カンファレンス(RBC:Regional Business Conference in IBARAKI)において、礒田先生より、「企業との協働による多様なバイオビジネス創出の可能性」と題して、本コンソーシアムの活動を報告して頂いた。

③ 特区プロジェクト間の交流支援
平成 28 年度、平成 29 年度に引き続き、プロジェクト「TIA 世界的イノベーションプラットフォームの形成」とプロジェクト「つくば生物医学資源を基盤とする革新的医薬品・医療技術の開発」の事務局が連携して、第 3 回 TIA-TLSK 共同ワークショップを開催した。T-CReDO(筑波大学つくば臨床医学研究開発機構)の荒川義弘機構長による招待講演の後、研究グループ・プレゼンテーションとして、11 人の研究者による研究への取り組みについてショートプレゼンを行った。

○第 3 回 TIA-TLSK ライフイノベーションワークショップ
・開催日:平成 30 年 11 月 28 日
・場　所:つくば国際会議場
・主催者:TIA、つくばライフサイエンス推進協議会
・参加者:60 名

TIA-TLSK ライフイノベーションワークショップ



TIA-TLSK WS ショートプレゼンの様子

（３）プロジェクト「つくば生物医学資源を基盤とする革新的医薬品・医療技術の開発」に係る取組み

① オープンイノベーションへの取組み（TLSK ピッチ会）

平成 28 年度より、TLSK の場を活用して、研究者からのシーズやシステムの提案を行い、新たなマッチングを目指す TLSK ピッチ会（ショートプレゼン会）を実施しており、平成 30 年度は 3 回実施した。本ピッチ会をきっかけにして数件の共同研究が開始された。

② TLSK 若手交流会

若手研究者の横のつながり形成や、次世代の共同研究テーマの発掘を目指して、つくばの様々な研究所の 40 歳以下の研究者による若手交流会を開催した。平成 30 年度は、これまで交流会で検討してきたテーマ候補 50 件から、“見える化１”、“見える化２”、“培養肉”のテーマを選定し、各チームに分かれて、講師の指導のもと、計 5 回（6/6、7/11、9/7、11/14、12/13）の若手交流勉強会を実施した。各チームのテーマ検討の結果は、第 33 回 TLSK で、会員への新規テーマ提案として発表し、それぞれ表彰された。なお、テーマ“培養肉”に関して、TLSK 若手交流会発の事業化候補テーマとして採択され、来年度の生物医学資源コンソーシアムテーマ候補として検討されている。

若手交流会のチーム発表会

テーマ提案に対する表彰式

③ TLSK への入会状況

平成 24 年に設立した当時は、約 20 団体で発足したが、ピッチ会や若手交流会等の取組により、平成 30 年度末時点では 50 団体を超える会員数となり、つくば地域におけるライフイノベーション領域の代表的な協議会として知られる様になってきた。

（4）プロジェクトに関する広報支援

市民向けセミナーの開催

市民向けセミナー１：

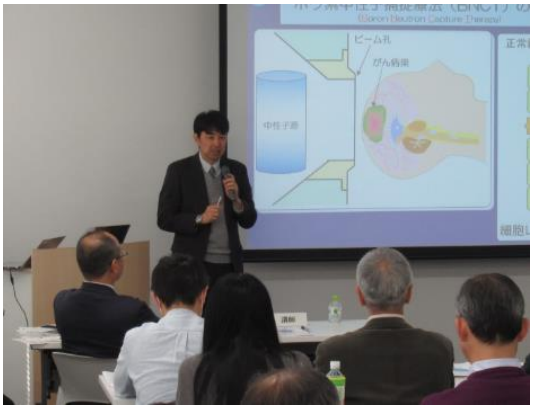
「長寿健康社会を目指した植物デザイン研究～ものつくりの最前線～」

開催日：平成 30 年 11 月 10 日（土）10：00～12：00
開催場所：筑波大学春日エリア情報メディアユニオン２階メディアホール
講師：筑波大学　江面先生、棚瀬先生、野中先生
参加者：60 名
（本会は国立大学附置研究所・センター長会議の第 2 部会シンポジウムとの共催として実施した。）

市民向けセミナー２：

「最先端のがん治療技術に迫る！放射線も霧箱で見られます！」

開催日：平成 31 年 3 月 17 日（日）10：00～12：00
開催場所：筑波大学高細精医療イノベーション棟 415 室
講師：筑波大学　熊田先生、原子力機構　土谷先生
参加者：40 名



講演の様子（熊田先生）

放射線の可視化の実験を行う様子（土谷先生）

（エ）情報発信・国際連携活動

（1）ウェブサイト・メールマガジン等を活用した情報発信

ウェブサイトを活用し、TGI 関連のイベント、技術ニーズ、競争的資金に係る情報発信のほか、特区プロジェクト関連機関からの要望によるイベントの周知を行った。地域協議会構成員・TGI 会員を対象に、イベント周知等のメールマガジンを発行した。さらに、行政機関等の主催イベントにおいて TGI の取組について情報発信を行った。

【パネル展示等を行った行政機関等の主催イベント】

- JST フェア 2018（平成 30 年 8 月 30 日～31 日、東京ビックサイト）
- 2018 筑波銀行ビジネス交流商談会（平成 30 年 10 月 11 日、つくば国際会議場）
- 産業交流展 2018（平成 30 年 11 月 14 日～16 日、東京ビッグサイト）
- Tsukuba Startup Day（平成 30 年 12 月 20 日、つくば国際会議場）
- 筑波大学産学連携シンポジウム（平成 31 年 3 月 15 日、筑波大学東京キャンパス）

（2）ハイレベルフォーラムへの参加

世界の主要なイノベーション都市から首長や研究拠点の長を集めて開催されるハイレベルフォーラム（開催日：平成３０年１１月１２日～１４日、開催都市：グルノーブル市）に参加した。ＴＧＩは、つくばの研究機関のハブ機関として、つくば地域の代表団を取りまとめた。本会議の参加で、イノベーション創出に係るつくば及び日本の先進性を示すことにより、世界におけるつくばのプレゼンスの向上に寄与した。

また、つくば地域の本フォーラムへの継続的で多大な貢献が評価され、主催者のＧＩＡＮＴ(Grenoble Innovation for Advanced New Technologies)からハイレベルフォーラム特別賞が贈られた。

○ハイレベルフォーラム 2018

開催日　：平成 30 年 11 月 12 日～14 日
開催地　：グルノーブル市（フランス）
テーマ　：Innovative Infrastructures for Tomorrow’s Cities
参加人数：約 140 名（世界 39 地域）

パネルディスカッションの様子

特別賞を授与されたつくば地域の代表団

（3）筑波大学の JST さくらサイエンスプログラムへの協力

科学技術振興機構（ＪＳＴ）が公募する「日本・アジア青少年サイエンス交流事業さくらサイエンスプラン」に筑波大学が採択され、8 月 27 日から 9 月 2 日にかけて，アル・ファラビ カザフ国立大学（カザフスタン共和国）及び西安電子科技大学（中華人民共和国）の大学生、教員 14 名を招へいし、筑波大学の研究施設や筑波研究学園都市の研究所等を紹介するなど、日本の最先端の科学技術について理解と関心を深めるプログラムを行った。TGI では、本プログラムに協力し、9 つの特区プロジェクト説明について、英語で講義および質疑応答を実施した。参加者からは、「将来つくばに戻って勉強したい」との感想が多く寄せられた。

・開催日：平成 30 年 8 月 28 日（火）13：30～14：30
・来訪者：中華人民共和国　　11 名（大学生 10、教員 1）
　　カザフスタン共和国　　３名（大学生 2、教員 1）
　　ミャンマー連邦共和国　３名（行政官 3）　　計 17 名
・随行者：田中副理事、グローバルコモンズ機構　関本課長、鷹巣主幹　等

講義の様子

集合写真

３．会員の勧誘活動の推進

１機関が退会し、正会員は１７機関・社となった。

４．TGI の運営に関する事項

ＴＧＩの事業全般の企画立案、計画の策定、執行のため以下のとおり会議等（メールでの会議を含む）を開催した。

〇総会

平成 30 年	6 月 27 日	第５回定時総会

〇理事会

平成 30 年	5 月 21 日	平成 30 年度第 1 回通常理事会
	6 月 27 日	平成 30 年度第 1 回臨時理事会
	7 月 20 日	平成 30 年度第 2 回臨時理事会
平成 31 年	2 月 14 日	平成 30 年度第 3 回臨時理事会
	3 月 18 日	平成 30 年度第 4 回臨時理事会
	3 月 28 日	平成 30 年度第 2 回通常理事会